

まちづくりの実践報告 ～まちなかをキャンパスに～

令和5年5月26日 岐阜県立関高等学校

地域とともに、まちづくりに関わる関高生の活動を報告します！

◇ ほらどキウイを未来につなごうプロジェクト JAめぐみの 関市 関係企業 ほか

関高校は、キウイ増産計画、「ほらどキウイを未来につなごうプロジェクト」の協力団体です。ほらプロは、JAめぐみのを中心に、関市・関高校・十六銀行・イオン等の団体が参加する農業振興・地域活性化に向けた取り組みです。関高生の提案したドレッシング・焼肉のタレは、関イオン直販店等で販売され、ふるさと納税返礼品にも採用されています。3月実施のスイーツのマルシェは大好評でした。



◇ O.sora (まるそら) ドーナツ 関市市民協働課 市内飲食店 ほか

関高生が他校の生徒や飲食店とともに考案した関市の特産品「円空里いも」を生かしたドーナツです。風味や色を出すために、里芋以外の関市の様々な特産品を使っています。イベントで販売すると、あっという間に売り切れる人気商品となっています。昨年度マルシェには、加茂農林高校にも参加していただきました。



◇ SEKI米粉倶楽部 JAめぐみの、PLUS、関市農林課、NPO法人 ほか



地元米の生産振興、地産地消の推進、環境保全のため、本校家庭クラブで取り組んでいるプロジェクトです。毎年、家庭科の夏季休業中の課題として米粉レシピコンテストに取り組み、優秀作品については市内飲食店のメニューに採用されるなど、年々、実績を上げています。令和3年度家庭クラブ全国大会では、本活動は、全国2位相当の表彰を受けました。こうした取り組みにより、本校は、本年度より、JAめぐみのから「農業の応援団特別団員」の委嘱を受けました。

◇ 鹿っ子プロジェクト 関市・郡上市内の関連事業所、NPO法人 ほか

害獣として捕殺された鹿の大半が廃棄されている。そんな事実を知った関高生が、関市・郡上市内の飲食店や関連事業所とチームを結成し、ジビエによる活用をめざして活動を開始しました(鹿っ子プロジェクト)。

食品ロス削減の打開策として、鹿肉ミンチ(右写真)の商品化をめざし、その普及をめざすためのメニュー開発も行いました。3月には、関市及び郡上市で、啓発活動を兼ねたマルシェを開催しました。看板メニューの「鹿っ子ミンチ丼」は大人気で、郡上市・関市で完売しました。



◇ 自治体へのまちづくり提言 関市・富加町・美濃加茂市 ほか

自分たちが考えた地域課題の解決提案を、実際のまちづくりに生かせないか。昨年度、関高生は、関市長や美濃加茂市長の前で発表する機会をいただきました。すでに富加町では、町のイベントに企画段階から関高生が加わり、高校生のアイデアが実現しつつあります。自治体へのまちづくり提案に関しては、他の市町にも呼びかけて、今年度も実施する予定です。

9月10日には、関市のまちづくりに関する高校生と市民の交流会を開催します。関高以外の高校生も参加予定ですし、中学生を含む市民の方々の参加も大歓迎です。



◇ ジェンダー・フリーの実現に向けて 関市市民協働課 ほか

関市は、性的少数者の権利を守るため、「LGBTフレンドリー宣言」を発表しています。この動きに呼応した関高生有志の発案で、ダイバーシティSEKIシンポジウムが行われるようになり、今年で5回目を迎えます。今年度は、性的少数者の問題に加え、シングルマザーの子育て等、広くジェンダー・フリーの諸問題について、啓発活動を行う予定です。



◇ 戦争の記憶、戦争遺跡の記録化 地域住民の皆さん 関市文化財保護センター ほか

関市大杉、美濃加茂市稲辺、坂祝町深萱にかけての台地には、第二次大戦末期の陸軍飛行場がありました。滑走路跡地の周辺には、今も地下壕が残されています。関高校では、こうした戦争遺跡の計測や写真撮影などの方法で記録化し、さらに当時を知る高齢者の方々への聞き取りを進めています。学びの成果を学会やコンクールで発表し上位入賞を果たしました。今年度5月21日、関市文化財保護センターとともに、関飛行場跡での現地セミナーを行いました。



◇ シャッターアート 関市本町の事業所、NPO法人 ほか

「シャッターアートとかやりたいね」。美術部員のそのつぶやきが、NPO法人の手を経て、様々な事業所の協力で実現にいたりしました。シャッターアートのモチーフは、関市の鳥・カワセミです。関係者で何度も議論を重ね、11月27日、1日ばかりで描きあげました。通行人の方々からは、町がにぎわうからもっとやってほしいとの励ましの言葉をいただきました。

◇ 歴史マンガ制作、木曾川下り実験 富加町・美濃加茂市 ほか



一昨年、織田信長の美濃征服をテーマにした観光提案を関高生が立案、「みのかも定住自立圏」のイベントで発表しました。コロナ禍の最中でしたが、富加町の企画に高校生が加わり、郷土史を題材とした歴史マンガ『斎藤新五利治』が完成しました(右写真)。

さらに関高生の提案により、かつての木曾川下りの復活計画が進められ、夏に社会実験が行われました(左写真)。このプロジェクトは、犬山市や各務原市を含む木曾川中流域の観光開発構想、アフターコロナを見越したインバウンド誘致にもつながろうとしています。



◇ フィリピンの高校生とのオンライン交流 関市観光課、観光協会、関連事業所 ほか



コロナ禍により中止となった海外研修の代替措置として、英語を介したフィリピンとのオンライン交流が始まりました。

夏休み中に、1対1の英語レッスン、フィリピンの街角案内など、充実したプログラムに参加しました。さらに、春休み中に、関市内の様子をフィリピンの高校生(計174名)に向けて、関高生が英語で発信を行いました。部活動(剣道・柔道・書道)や観光地(関善光寺・関鍛冶伝承館)の案内、老舗和菓子店による和菓子作りの実演など、内容は盛りだくさんであり、フィリピンの高校生が歓声を上げる様子が画面の向こうから伝わってきました。この催しは、今年度も実施する予定です。